

守ることが、生きること。

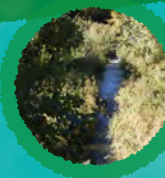


半世紀もの間、ふるさとを守り続けている
13世帯の暮らしを巡るドキュメンタリー映画プロジェクト

ほたるの川の まもりびと (仮)

監督：山田英治／撮影：百々新／制作：Better than today.

<http://www.savekobaru.com>



この映画で伝えたいこと

長崎県川棚町こうばる地区は、夏には蛍が舞い、子供たちが川で遊ぶ豊かな自然に囲まれた美しい里山です。ここにダム建設の話が持ち上がったのが半世紀ほど前。以来、こうばる地区の住民たちは、ふるさとを守るために反対運動を展開してきました。現在残っている家族は、13世帯。長い間、苦楽を共にしてきたこうばる地区のみなさんの結束はとても固く、幼い子供からおじいちゃんおばあちゃんまでが、まるで一つの家族のようです。いつ工事がはじまるかもしれないという緊迫した状況の中でも、明るく前向きに日々の暮らしを営んでいます。この作品は、そんなこうばるに暮らす人たちの日常を描くドキュメンタリー映画です。私は、ここでの暮らしの描写を通して、こうばる地域で起きていることが、特別な地域の、特別な人たちの問題ではなく、ふるさとを持つ日本人の誰もが関わる問題であることを伝えたいと考えています。賛成、反対を問う映画ではありません。まず、見てほしい。こうばるの暮らしを感じてほしい。その暮らしが、公共の福祉と引き換えに、失われようとしている。その事実を知ってほしいのです。ダムはほんとうに必要なか、必要じゃないのか。公共の利益か、自分のふるさとで生きる権利か。その選択について、考えるきっかけを提供できる映画にしたいと思っています。

監督：山田英治

石木ダムの問題



佐世保地区の1日の最大取水量・市予測と実績の乖離



※佐世保市水道局の資料をもとに作成

石木ダムの建設計画は、今から半世紀ほど前の1962年に持ち上がりました。事業の主体は、長崎県と佐世保市。ダムの目的は利水と治水。利水とは飲み水を確保すること。佐世保市は、年々水利用が減少しているのにも関わらず、ダムが完成される頃には「水の需要は増加する、だから必要だ」と言っている。また治水の面では、石木川にダムをつくることで川棚川の下流域の洪水を防ぐことができるとしている。石木川はとても小さな川。注ぎ込む川棚川の流域面積の9分の1。その川にダムをつくるのが果たして治水に有効なのだろうか。反対住民は、推進側の根拠そのものをもう一度検証すべきとしています。さてみなさんはどう考えますか。詳しくはこちらで。<http://www.ishikigawa.jp/>

A-portにて、クラウドファンディング中！ 現金書留でのご支援も可能です。

詳しくはコールセンターにお問い合わせください。

コールセンター03-6869-9001 (祝日を除く月～金曜10～17時)

<https://a-port.asahi.com/projects/kobaru>



facebookページもあります。

